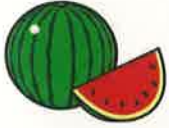


Artfull

令和3年8月13日発行
(2021) <Vol.95>

【発行】
内浦公民館
〒919-2351
高浜町山中 104-4-2
TEL.0770-76-2007
FAX.0770-76-2008
E-mail
uchiura_c_c@town.takahama.fukui.jp



内浦公民館講座 『夏休み子ども教室』開催！



《あっとザ・サイエンス》【自分の力で電気を作ろう】8/4



プタのぬいぐるみが
可愛く動くよ(^O^)



《あっとザ・サイエンス》には小学生17名が参加しました。ペダルをこいで電気を作る体験や、ぬいぐるみを手動のハンドルを回して作った電気で作動させる体験をしました。電気を作る為には体力が必要なことを実感したようです。楽しく学ぶ事が出来ました。

《習字教室》では小学1.2年生の『書き方』を和室で行い、3年生以上は『習字』を会議室で行いました。緊張しながらも講師の山崎慶子さんに文字の書き方の基本を教わって、学年ごとの課題に取り組みました。

【紫外線ビーズストラップ】を作っている写真です。ビーズの色を自由に組み合わせ素敵な作品が出来ました。

《習字教室》8/7



*QRコード
広報誌をカラーで
ご覧いただけます。



●開館時間 午前8時30分～午後10時 ●利用時間 午前9時～午後9時30分
※夜間利用が無い場合は午後5時00分で閉館いたします。

★内浦の魅力再発見★【神野編】

《神野区の内藤さんが、少年時代の記憶を思い出していただきました。》

奥：神野には役場と駐在所があったと聞いています。

内藤：病院もあったで。その頃は道が整備されとらんかったから、神野浦まで各区から舟で来とった。舟で来やすかったから、神野に役場が建てられたんやと思う。上瀬の方からも音海の人も田ノ浦や神野浦で田んぼを作とった。特に稲刈りの時は稲を積んだ丸木舟が行き来して神野浦の海は祭りのようやった。女の人は赤いタスキをかけて櫂を漕いどったよ。櫂を漕ぐ音が響いとった。

奥：手漕ぎの舟にどっさり稲を乗せて大変な力仕事ですね。神野では相撲をとる行事があったと聞きました。場所はどこですか？

内藤：その場所の事やけど、【忠魂碑】があるの知っとるか？内浦全部の戦没者の慰霊碑。電気がまだ無かった時代、戦争に行く兵隊さんに村長・警察・先生が励ましの言葉をかけ、兵隊さんは「家族がお世話になります」という内容の言葉を残して行かれたのを覚えている。兵隊さんの姿が見えなくなるまで万歳で送り出したんや。舞鶴の軍港めざして、神野の上をB29が低く飛んで行った事もあった。空襲警報で防空頭巾をかぶり、穴に入った。その頃は、サイレンじゃなくて半鐘をならしとったと思う。

奥：ドラマや映画でしか見たことのない光景がここにあったんですね。

内藤：【忠魂碑】は内浦じゅうから人が集まって、神野浦から引っ張りあげたんや。神野の宮さんの裏には【忠魂碑】を引きずった跡が道のように残っている。たくさんの人で少しずつ上げていったんや。それはほんまにすごい事やと思う。人の力はすごい！

相撲の話は、松の木の下に相撲場があって、夜祭の日に音海からも来て相撲をとり、優勝者には酒一升。勝つと又、朝来（あせく・京都府）にも相撲をとりに行った。そこでも勝つと、酒一升や（笑）

四分一の祭りが神野であった時は、和田、高浜、青郷はもちろん、京都府川辺・成生・田井から風呂敷を背負ったおばあさんが歩いてお参りに来とった。各家でお風呂に入ってもらって、境内で夜祭り。店も出て、桃を買ったなあ。大きなすり鉢をひっくり返して、上に、もぐさを置いて、すり鉢くぐりもやった。一晚寝ずに夜明けと共に皆が帰って行った。にぎやかな行事も観光バスが走るようになると、楽に遠くへ行けるようになり神野へ来る人が減って、行事は無くなった。

奥：もっと詳しく聞きたいのですが、最後に【竹】について教えてください。

内藤：神野の【竹】は質が良く節の長いまっすぐな真竹がいっぱい取れた。昔は家の壁や天井、いろいろな所に竹が使われとったから、大火事や福井地震後復興にもぎょうさん運んでいったんや。それは県道ができて福井まで運べたこれが大きかった。その後プラスチックとかが使われ出して【竹】の需要が無くなり、竹を取らなくなった。

奥：時代の流れで無くなってしまふものと、昔から語り継いで大切にしないといけない事。両方のお話が聞けて良かったです。又、いろいろ教えてください。ありがとうございました。



《地域ニュース》

～音海の豊かな海を守るために・自治会活動～



魚釣りやダイビング等多くの人が訪れている音海の海は、ゴミが増えて大変なのではないかと思い聞いてみました。年間を通じて、月曜日と土曜日にゴミ清掃とトイレ掃除をしているそうです。お話を聞いたのは日曜日でしたが、ゴミのないきれいな海辺でした。

『ゴミ清掃は12名で3班に分かれて当番制にしている。おむつが混ざっていたり、冷蔵庫などの粗大ごみが捨ててあったりと大変です』『自治会の活動は他に、花見やクリスマスの主催、密漁パトロールなどをしています』という事でした。自分の住んでいる所を自分達でキレイに住みやすくしたいという熱い思いが伝わってきました。皆さんも地域の事で考えたり行動されている事があると思います。次は皆さんのいろいろな活動を聞かせてください。



今回は 半藤一利 著『戦争というもの』です。

少年時代に東京大空襲で自宅を焼かれ、炎に追われて九死に一生を得た戦争体験から、「なぜあの戦争は起きたのか、なぜ多大な犠牲者を出して悲劇的な敗北に終わったか」を戦争指導者の生き残りに取材し、膨大な文献を渉獵して答えを探し続けた著者が憂えていたのは、日本と米国の大戦争を知らない人がいるという現実だといえます。これは「令和」を生きる世代に送る著者からの最後のメッセージです。

前書きに、夫々の名言は「むしろ許しがたい言葉にこそ日本人への教訓が詰まっている」「悲惨な戦争において教訓になるようなものはないと言い切ることは、人間は歴史から学ぶことをしないと告白するにひとしい」と言っています。

当時石油の9割をアメリカから輸入していた日本は、中国問題をめぐりアメリカとの関係がこじれ、昭和15年に日米通商航海条約が失効し、翌年8月には石油の全面禁輸という措置をとられてしまいます。アメリカから石油が来なくなれば、東南アジアへ資源を求めるしかなく、政治家・軍部・マスコミまでが対米英戦争を公然と言い始めます。

「理想のために 国を滅ぼしては ならない」若槻礼次郎 譲歩に譲歩を重ねて、アメリカとの条約の再締結の交渉を続けますが、日本の提案を全く無視した強硬な要求をつきつけられます。これが歴史的にも有名な「ハル・ノート」言われるハル国務長官からの回答でした。戦争やむなしと東条内閣は決断に至るのです。昭和天皇からの意向を受けた懇談会において開戦は自衛戦争であること。東亜新秩序建設のため。(アジアからイギリス・オランダ等を撤退させ、大東亜共栄圏を建設する)と力説する東条に対して、若槻は言います。「理論より現実に即してやる必要があるではないか。力がないのに、あるように錯覚してはならない。日本の面目を損じても妥結すべきではないのか。不面目であっても、ただちに開戦などと無謀な冒険をすべきではない。」東条「理想を追うて現実を離るるようなことはせぬ。しかし、何事も、理想を持つことは必要である。そうではないか。」若槻「いや、理想のために国を滅ぼしてはならぬのだ。」

「アジアはひとつ」岡倉天心 明治36年に英文で出版した『東洋の理想』の冒頭の言葉です。若いころ天心は中国、インド、マレー半島等を歴遊し、植民地化されたアジアの民の屈辱と苦しみを、身をもって実感します。かろうじて日本だけが、独立と伝統を護持している。その幸せをアジアの民のために尽くすべき、という思いを凝縮したのが「アジアはひとつ」という言葉なのです。そうとは理解しなかった日本人は、これこそ大東亜共栄圏を象徴する言葉として喧伝し、欧米列強の代わりに日本が支配する絶好のチャンスととらえていたのです。残念ながら、日本人の多くは、アジア諸民族を軽蔑しきっていたのです。本気になってアジアの民の解放を思い、戦争に向き合い、賛美し、協力をした文人や芸術家は、皮肉にも、戦後、戦犯さながらに糾弾されてしまうのです。

「太平洋の防波堤となるのである」栗林忠道 開戦から2年、数々の島嶼戦に敗れた日本は、一億総特攻のスローガンのもと、陸軍は本土決戦による必勝を豪語し始めます。米海軍は日本本土の表玄関というべき、小笠原諸島の硫黄島への上陸作戦を開始します。硫黄島防衛の指揮を執るのは栗林忠道陸軍中將でした。幹部招集の会合でこう言います。「本島は皇土の一部である。もし本島が占領されたなら、皇土決戦は成り立たない。もし本島へ米軍の上陸作戦が始まったなら、大本営としても陸・海・空の残存兵力を投入して、上陸を断じて食い止める、との約束をしている。すなわち、我々は太平洋の防波堤となるのである。」米海兵師団7万5千人の上陸を硫黄島2万3千人で迎え撃ちます。5日で作戦は完了との米軍の見込みに対し、日本の守備隊は地下道の陣地戦を不屈の闘志で戦い、35日間にわたり抵抗を続け、米軍の死傷者2万5千8百人、日本軍死傷者2万数百人が出たのです。栗林は大本営から1兵の援軍も送られなかったことに、うらみ言は一言もせず、最後の突撃の先頭に立って、散っていきます。

「沖繩県民斯く戦へり」大田実 沖繩方面特別根拠地隊の司令官太田実少將が残した海軍次官あての電報の最後の1行です。「沖繩県民斯く戦へり。後世特別の御高配を賜らんことを」沖繩戦において、県民がいかに極限状態のなか、軍に協力し沖繩防衛のために働いたかを報告した後、自決したのです。沖繩県民は本土決戦準備の時間稼ぎの為、「軍官民共生供死」のスローガンのもと、県民を戦闘に巻き込み、15万人の県民が死亡したのです。大田の願いは、戦後75年を経ても叶わないままに、米軍基地が存在し、安寧の日々は訪れず、沖繩の戦いは続いているのです。

戦争というもの

半藤一利

原稿後の

の

戦争は、
国家を約束させる。
歴史を生き抜く者は
そこにある。

半藤一利



< 9月からの内浦公民館講座のお知らせ >

- 『四季の過ごし方～秋～教室』 9月25日(土) 13:30～15:00

講師：山崎慶子さん (マイクロビオティック食事アドバイザー)



- 脂肪燃焼!! かんたんエクササイズ教室=4回シリーズ=19:30～20:30

9月29日(水)・10月8日(金)・19日(火) 29日(金)

講師：後藤康耀さん (柔道整復師・健康ケアトレーナー)

*詳しくはチラシをご覧ください。内浦公民館にお問合せください。



■ 男の体操教室【会場】内浦公民館

*開催は8月31日(火) 13:30～ 内浦公民館2階 多目的ホール

運動指導：松本 悠作 (高浜町保健福祉課 理学療法士)

健康な体作りを続けて行きましょう(*^^*)



○ チャレンジコーナー結果発表! (今回順位の発表はありません)

段ボールの壁を越えた先にあるカップにピン球を入れることで、点数を競いました。

* 8名の皆さんが最高点240点を出されました

～次は『めざせ!内浦公民館』です。たくさんのチャレンジおまちしています～

けんこう勉強会

7月20日(火)内浦診療所の澤田先生が内浦公民館でけんこう勉強会を開催されました。健康に関する話題を内浦地区の皆さんと一緒に考えていこう!という澤田先生の取り組みの1つです。今回は【熱中症について】お話されました。

熱中症予防として、暑さを避け水分補給をする事の大切さと熱中症の怖さも知る事が出来ました。

■ 内浦公民館に『内浦診療所だよりファイル』を置いてますので、ご利用ください。

また、アンケートボックスも設置していますので澤田先生に取り上げてほしい内容や質問などお寄せください。



【お願い】新型コロナウイルス感染防止対策の為、受講時には原則としてマスクの着用、アルコールによる手指の消毒をおねがいします。また、受講前には必ずご自宅での検温をお願いいたします。

(体温が37.5℃以上や体調が悪い場合はご遠慮ください)

* 利用時においては、定期的な施設内の換気にご協力ください。*